

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスつばさ			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広々とした開放的な活動スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・走り回って遊ぶ場所と、机に向かって集中する場所を明確に分けることで、衝突事故の防止を図っています。 ・児童の状態に応じ、マットや仕切りを用いて「安心できる個別スペース」を即座に提供できるよう配慮しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玩具棚へのラベル貼付（写真・イラスト）を強化し、自発的に片付けや準備ができる環境作りを進めます。 ・備品の配置を常に見直し、見守りの精度を高めることで、より安全な居場所作りを追求します。
2	児童10名に対しスタッフ7~8名を配置する手厚い体制	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの人数を活かし、お子さまのその日の気分や様子に合わせた、余暇時間の提供を行っています。 ・多くのスタッフが関わることで、一人の視点に偏らず、児童の良さや課題を多角的に分析し支援に繋げています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが固定化せず、誰とでも安心して過ごせるよう情報連携を徹底し、幅広く関わる体制を強化します。 ・急な欠員時も全員でフォローし合える体制を整え、常に安全で質の高い支援を継続します。
3	全スタッフが共通の認識を持って支援にあたるための、情報共有の時間がある	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員の出勤時間に合わせた打ち合わせを行い、活動内容や配慮事項を必ず伝達してから支援に入ります。 ・活動後に送迎・室内各担当で振り返りを行い、気づきや課題を翌日の支援へ即座に反映させるサイクルを構築しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時間が遅いスタッフに対しても、引き継ぎ方法を工夫し、情報の漏れが一切ない仕組みを目指します。 ・非常勤も含めた全スタッフが自由に意見できる風通しの良い環境を作り、支援の質の向上に繋げます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の支援内容や、子どもたちの活動の様子を外部へ発信する力の不足	ブログ更新の不定期化や、活動写真を適切に共有する仕組みが整っておらず、現場での工夫や子どもたちの成長を届ける手段が不十分なことが要因です。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ等の定期更新を習慣化し、プライバシーに配慮した写真活用で、活動の様子を視覚的に分かりやすく伝えます。 ・支援の現場でスタッフが大切にしていることや、日々の支援の工夫も積極的に発信し、より安心感を持っていただける事業所を目指します。
2	地域社会との接点や、外出活動の機会の不足	安全確保を優先するあまり、外部との具体的な交流計画の立案や、地域住民との接点作りが組織として不十分であったことが要因です。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節行事や外出行事を盛り込んだ年間プログラムを作成し、計画的な社会体験の機会を確保します。 ・近隣商店への買い物学習など身近な交流からスタートし、地域の一員としての自信を育む場を広げていきます。
3	提供するプログラム内容の重複・特定のジャンル（工作等）の偏り	スタッフが主体的に企画している一方で、事前の相互調整が不足しており、活動内容のバランスを客観的に確認する仕組みが弱かつたためです。	<ul style="list-style-type: none"> ・月案作成時にスタッフ間で内容を詳細に打ち合わせ、運動・学習・音楽等、多様なジャンルが揃うよう調整します。 ・各スタッフの個性を活かしたバラエティ豊かな計画を立て、子どもたちが毎日新鮮な体験を楽しめる環境を整えます。